

## 第5回学び喜び・ESD 連続公開講座

奈良教育大学 中澤静男

- ◇開催日時 2021年12月7日(火) 19時～20時30分
- ◇方法 ハイブリッド方式(次世代教員養成センター多目的ホール、ZOOM)
- ◇参加者数 82名
- ◇内容

「ESDの必要性とその具体化 学校教員にとって、一番大事なものをお伝えします。」

講師：江東区立八名川小学校 前校長 手島 利夫 氏

### 1. 世界を持続不可能にしかねない多くの課題

17の目標に向かって、みんなで取り組むのがSDGsである。

取り組み続ける人を育てるのが大事—教育の果たすべき役割の重要性

### 2. 今、進んでいる学校教育における変化：学習指導要領の改訂

学習指導要領とESDやSDGs

- ①変わりゆく変化の時代に合わせて子どもたちの学びも変わっていく
- ②学びを進化させる
- ③地域の方も一緒に加わって、社会全体で応援してほしい 社会に開かれた教育課程  
みんなで総がかりで取り組むことでやっといい教育ができる

### 3. 変わりゆく時代の変化 (最近の10年)

雨の降り方、コロナ禍(変異株)、東日本大震災・原発事故、情報化

50億人の知能との結びつき、AI、スーパー台風(フィリピン)、干ばつ、食料不足、ヨーロッパの熱波、ゲリラ豪雨、

COP26 地球の平均気温が21世紀末に4.9℃まで上昇するかもしれない

※どれが一番重要な課題なの？

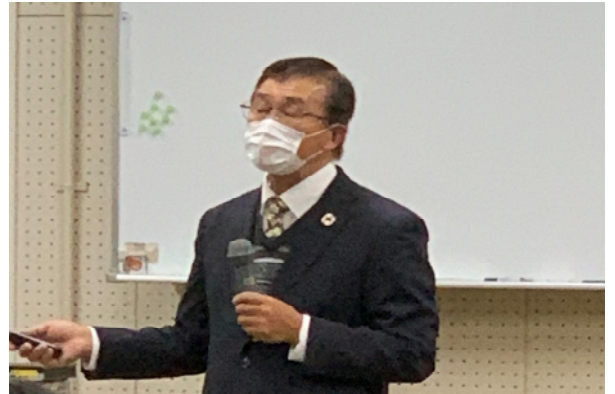
### 4. 世界が変われば物事の正解も変わる 求められる人間像も学力観も変わる

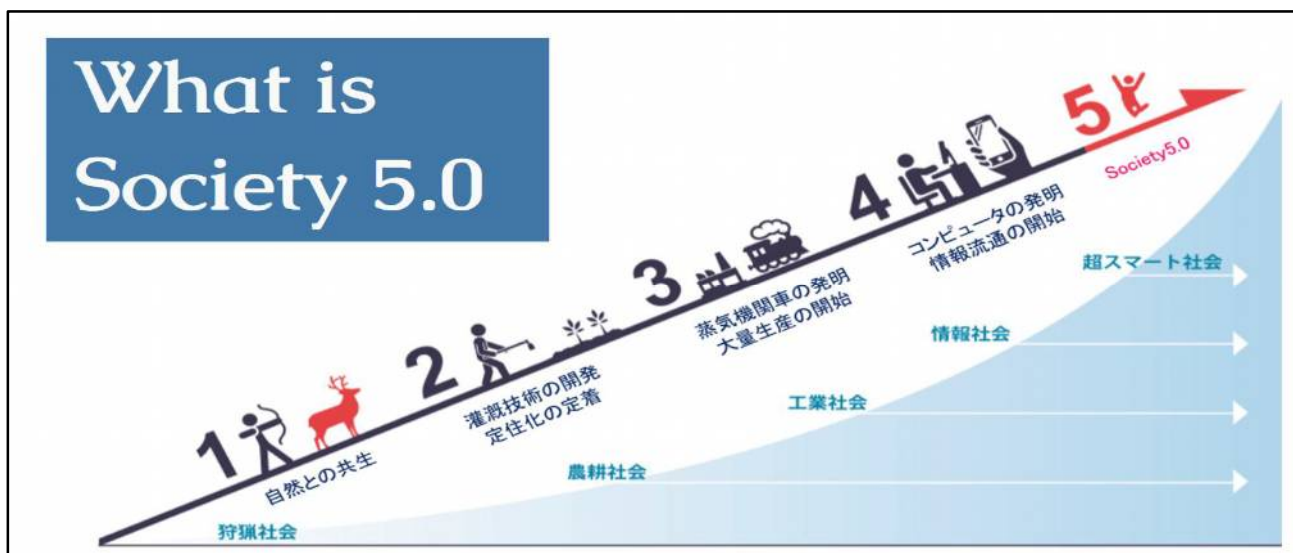
日本の「教育」「学力」は今の世界の中でどんな価値があるのか？

2013年 東大はアジアで1位だったのが、7位に

日本の国際競争力は27位(2015年)へ下落

- ・シンガポール：1997年「考える学校、学び国家に」コンピテンシーベースの学びに
- ・香港も 量から質の教育に変えてきている
- ・日本は工業化の時代では大成功した。平成でのIT革命・超グローバル化 ⇒「ゆとりの中で生きる力を育む」に変わろうとしたが、学力論争(学力低下批判)でつぶされた。いまだに工業化の時代の教育をしている。もう世界の変化に対応できていない。
- ・知識・理解の教育を受けてきた学生は世界で通用しなくなってきた。





問い.学校教育を変えるとしたら、どのように変えていく必要があるか

学習指導要領ではどのように記載されているか 前文と総則から改訂の理念を読み解く

・自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協議しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる→E S Dの推進

・思考力・判断力・表現力の育成が大切 学びに向かう力・人間性を育むためには、



①各学校の教育目標を明確にする

自分で問題を見つけて、主体的に取り組む子の育成が大事  
総合の学習をうまく生かして  
教科横断的な学びをつくろう  
カリキュラム・マネジメントの重要性

②授業実施面

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
問題解決的な単元構成を考える 探究的・問題解決型の学習過程に

○どうしてカリキュラム・マネジメントが必要になってきたのか

### ▼新型コロナ流行

移動制限、企業活動の停滞（収入減・貧困の拡大・格差）、巣ごもり、休校・分散登校  
マスクと消毒、ソーシャルディスタンスをするようになった。←行動変容

→ 様々な問題が一度に起こった。専門分野に閉じこもっては役に立たない

今までの枠組みの中だけの学びでは対応できない時代になった。

教育が社会の変化に追いついていない。

いろいろな知見を集めて国境や分野を超えてつながって、解決していく時代に対応した教育

### ▼地球温暖化

あなたの教科・領域・専門分野でなにができるか？を考えてみる。つなぎ方を考える。

汎用的な能力を育むためにはカリキュラム・マネジメントが必要

教科を横断しながら（つなげていきながら）進めるストーリーをつくることが大切

教育課程全体の中に単元を位置づける 年間を通して考えたのが ESD カレンダー

指導計画とカレンダーをセットにする

○主体的・対話的で深い学びのスタートは「学びに火をつけること」

①問題に気付かせる出会い 親しみ・憧れ・共感を生む出会い・体験をつくる

②火をつける 矛盾する事実や意表のつく話、資料に出会わせ、ひっくりかえす

③テーマを決める 疑問を出し合い、磨き合って学習問題を構成していく

「わくわくどきどきチャレンジ社会科」(古川清行)

単元の学習過程

「学びに火をつける」→調べる→まとめる・実行する→伝え合う

切実感・実感のある出会いが大切 人物との出会いを 自分の問題意識をはっきりと持つこと

※子どもが学びたくなるようなしかけをつくるのが先生の仕事

どういう資料の出し方をすればどんな反応がうまれてくるかを研究する（1人ではなく、仲間と）

学校で同僚性を発揮できる雰囲気をつくっていく

## 5. S D G s 時代の教育のあり方

大人中心から子どもが主体になる教育へ

変容型の授業をつくっていく

学びが進化する学校（上級生の学びを下級生が見て学んでいく、その積み重ね）

